

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101739		
法人名	医療法人 湖青会		
事業所名	高齢者グループホーム志賀の里		
所在地	大津市和邇高城270番2		
自己評価作成日	平成30年11月14日	評価結果市町村受理日	平成30年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 株式会社平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成30年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『この町で もっと 自分らしく』を事業所の理念としています。
 毎日を共に過ごす馴染みの関係の中でより個別に関わらせて頂くことで、安心し、昨日よりも今日、今日よりも明日…と、もっと自分の出来る力を使いながら自分らしく暮らせるように、職員はご利用者様と誠実に向き合っています。
 医療法人の運営で、隣接する診療所や訪問看護ステーション・介護老人保健施設、また同一敷地内のデイサービス等と連携をとりながら、途切れのない支援が出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスを併設する2ユニットを有するグループホームで、全て同一フロアに配置し、利用者や職員は日頃から自由に交流している。いずれかのユニットで発生するかも知れない人員配置の不足に備え、互いのユニットの職員の一部が日時を決めて就労ユニットを交代し、利用者の介護に参加し馴染みを作り上げているので、非常事態発生時に利用者に不安を与えることなく対応できている。利用者は両ユニットのリビングが互いに見通せる構造的な利点から気軽に行き交い、明るく過ごしている。太陽光発電と蓄電池を備えて、災害による停電時には、近隣住民のスマホや携帯電話の充電、個人向け医療機器の電源供給場所として提供している。運営法人でもある協力医療機関や訪問看護ステーションと連携して医療面の支援は強く、看取りを含めて、利用者や家族から強い信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はホールに掲示・勤務表に記載し、職員の目に付くようにする事で自身の支援が理念に沿ったものであるか振り返るようにしている。	「この町でもっと自分らしく」と謳う簡潔な事業所の理念は、ホールに掲出したり勤務表に記載するなど、日頃目につきやすくして、介護支援の振り返りの基準にしている。今年度は全職員が振り返りシートを提出し、理念の実践と共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事などへの日常的な参加は出来ていないのが現状。 地域住民の方の中からボランティアとして定期的に来居して下さっている方は複数いらっしゃる。	自治会行事には職員が参加し、日頃の付き合いを深める努力を続けている。地域幼稚園の運動会で玉入れに参加する利用者もあり、七夕祭りにも参加している。定期的に音楽ボランティアとピアノ、アコーディオンに合わせて歌い、フラダンスを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られたり電話を下さったりした場合にはそれに対応し、別のサービスを紹介させていただいたケースもある。 地域に向けての発信は、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方が参加して下さり、事業所からの報告に対してご意見をいただいている。ご意見を参考に事故防止などに取り組んでいる。	隔月に開催する運営推進会議は、行政職、地域民生員、地域婦人消防団、家族等で構成し、克明な議事録を作成している。転倒事故防止の提案があり、家族の同意も得て居室に足元センサー導入の事例がある。外部評価調査の結果も議題に挙がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員とは、管理者を窓口として報告・相談をしている。 多職種連携会議等にも参加し、関係づくりに取り組んでいる。	法改正時の解釈等は、法人を通じて指導を受けている。和邇地域包括支援センター管内の多職種支援会議「OK会合」に参画し、2ヶ月ごとのフォーラム等に参加している。行政の行う集団指導には、管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『「身体拘束ゼロ」への取り組み指針』を作成し、契約時にご家族にご説明している。 センサーやチャイムの使用により、昼間は玄関を施錠せずにご利用者様の安全が守れるようにしている。	外部不審者対策として、玄関にチャイムを導入し、夜勤勤務時間帯以外は施錠していない。「身体拘束適正委員会」で身体拘束ゼロの取組を行っている。玄関チャイムや赤外線式足元センサー導入には、家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講し、他の職員に伝達するよう取り組んでいる。 また、ケース会議にて、個別に身体拘束に頼らずに事故を防ぐ方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度をご利用の方がいらっしゃる、関係機関との連絡等を行っている。十分な連携ができているかは不明。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者からご家族にご説明し、ご納得いただいてから契約している。ご利用開始後に気付かれた事に関しては、いつでも訊いて頂けるようにお声かけしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設置し、行政窓口とともに重要事項説明書に明記している。 各ユニットの玄関には『ご意見箱』を設置しており、そこにご意見を頂いたこともある。	毎年、敬老会を兼ねて家族会を開催していたが、家族が参加できない利用者に失望感を与えないため敬老会に留めている。法人が運営する4グループホーム共通の家族アンケートを実施している。敷地内(空調機室外機前)の草刈り実行の要望があり、実施方法を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議など発言の機会を設けているが、参加者が限られてしまっている。 事業所内で出た意見は、管理者から法人に報告している。	毎月の全体会議、各ユニット会議はシフトにより全員参加は困難であり、議事録回覧で周知共有している。不測の事態で両ユニット間で勤務職員数が不足することに備え、勤務職員の一部が就労ユニットやシフトを交代しユニット間支援と交流に効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や、個人の勤務状況が把握されているかどうかは分らない。事業所の職員から出た声は、法人の全体会議や部門会議にて報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所毎に管理者に任されている部分も大きい。法人内外の研修について職員に案内しているが、勤務の都合がつかない事もある。受講希望者も多くはない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に加入しているものの、活動がないのが現状。多職種連携会議の案内は職員全員向けに行っているが、参加者は限られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接やサービス担当者会議にてご本人から、またはご家族や関係者からご本人の思いを伺い、ご本人にとっての安心がどういふものかを考えることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望についてお聞きしながら、ご本人にとっての最善の状態を共に考えて頂けるようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めてご相談をお受けした時には、必要に応じて他のサービスについてのご案内もするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事作業の場面や、干し柿作り等の季節の作業の場面などでは特に、ご利用者様を経験豊富な先輩として共に取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の支援に特に困難な部分があった時には、共に考えていただけるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方の支援も得て、元々お住まいだった自治会の行事に参加を続けておられる方がいらっしゃる。事業所としては、その継続のためにご本人の健康管理やADLの維持に努めている。	事業所近隣の利用者も何人かあり、馴染みの老人会や健康推進協議会の行事への参加が継続できるよう支援している。家族と外出や外泊される利用者もいる。気候のよい時期には事業所周辺を散歩し、旧知の知人や友人との出会いが出来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士と一緒に過ごしやすいように席を配慮したり、職員が間に入って会話をとりもったりするようにしている。また、あえて職員が入らないでご利用者様同士で過ごして頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も事業所を訪ねて来て下さったご家族がおられた。こちらからは、連絡事項があった時のみである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のご本人の様子を記録し、ご意向の把握に努めている。また、ご本人から伺うのが難しい場合は、ご家族にもこれまでの生活についてお聞きし、ご本人のご本人らしい暮らしの検討に努めている。	職員は利用者の輪の中に入り、話が広がるきっかけを作ったり、入浴時や着替え支援等マンツーマンで対応する時に情報を得ている。傾聴ボランティアには利用者が職員とは違った顔を見せ、有効な情報源になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とお話やご家族・他事業所から情報を得、これまでの暮らしやサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子を個別に記録している。リハ職の訪問も受け、共に状態把握する事・機能向上の可能性を探る事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当者がモニタリングを行い、それをもとにケース会議を行っている。主治医や看護師、他の法人内専門職にも必要に応じて意見やアドバイスを求めている。 ご本人の会議参加は、ないのが現状。	毎月担当者がモニタリングを行い、他の職員も回覧協議し、ユニット会議でカンファレンス後、概ね3ヶ月毎に介護計画を見直し更新して、家族の承認印を得ている。状態変化あればその都度更新している。面会に来れない家族には、とっておきの写真を1枚一言コメント付きで郵送し、併せ承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングのもととするものであるため、情報共有のためにも細かく記録するようにしたいが、時間に追われて書ききれない現状である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの訪問や出張散髪等の利用を必要時に行っている。法人内の他の事業所との連携の中で、柔軟に対応していけるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに出かける、等の取り組みをしているが、十分とは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の診療所の医師が訪問診療を行っている。また、他の医療機関にかかられる時には、書面や口頭にて必要な情報提供に努めている。	契約時に全員が、運営法人医院を協力医とし、訪問看護を含めた医療支援体制にある。診療所や訪問看護ステーションは道路を隔てて隣接し、利用者、家族は安心感を得ている。認知症の専門医や眼科、歯科など他の医療機関とも連携し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との24時間相談体制がある。管理者が事業所の代表として訪問看護師らと会議を行い、必要な情報が必要なタイミングで共有できる体制作りを進めているところである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変時に医療機関に対して提供するものとして、普段から服薬情報などをまとめた物を用意している。 多職種連携会議には参加し、顔みしりになっておけるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは、入居の段階で事業所で出来ることをご説明し、ご意向を伺っている。ご意向や、ご家庭の事情などにお変わりがあればお申し付け頂けるようお願いしている。 医師や看護師からご家族への説明の機会も持つようにしている。	「急変時の治療についての意思確認書」「終末期対応についての意思確認書」を契約時に同意し、同意書に押印交換し、医師の判断で終末期に入った後の支援記録は時系列的に作成している。職員は「看取り」についても真剣に取り組み、その人の最期まで関わることが良い体験となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は出来ていない。 個別のカンファレンスにて起こりうる事故や急変について話し合い、必要時は医師・看護師にアドバイスを求めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害などの自然災害を想定した訓練は、していない。 地域の婦人消防団の方には運営推進会議にも参加して頂き、ご利用者様の状況なども知って頂けるようにしている。	今年度は2回目の避難訓練が未実施である。地域婦人消防団が参加し、太陽光発電と蓄電池の設置により、災害時に近隣で医療機器利用者への電源提供を呼び掛けている。手持ちの避難マニュアルの活用ができていない。	避難マニュアルを活用し、年間2回の避難訓練の実施に努めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレのお声かけなど羞恥心に配慮が必要な場面で、十分に聞こえてらっしゃる方に対して大きな声で行っていることがある。親しみを込めた声かけとタメ口とが混同されているような場面も見られる。	職員は、利用者の人格と尊厳を尊重する基本姿勢を保ち、声掛けに「親しき仲にも礼儀あり」を全員が共有できるように折々に話し、全員が共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方にとっての分かり易い声かけを検討し、実践するように努めている。言葉のかけ方や場所、誰が声かけするのかななどにも配慮するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共用のリビングで過ごしたり居室で過ごしたりしておられる。居室から共用スペースへお誘いする時には、レクのお誘いや家事作業の依頼など、その方が快く出て来られる様な声かけを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お手伝いしながら好みの服を着ていただけるようにしている。散髪の際の髪の長さの注文は、ご自分で注文できない方については以前からの髪型を参考に注文している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備については、出来ていないことが多い。片付けについてはテーブル拭きや茶碗拭きなど、職員と一緒に作業していただいている。	厨房で専門業者が担当して配食し、各ユニットでは炊飯のみ行い、検食は同じ献立を利用する併設のデイサービスが担当している。個人の食好みを伝え対応している。毎月の法人記念日には「ちらし寿司」を提供している。小グループでの外食や、ユニット別に「すき焼き」など変化を持たせ、野菜をきったり、後片付けをしている利用者も居る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立が考えられ、一人一人に合わせて刻み食やペースト食を提供している。水分については、お茶やコーヒー、スポーツドリンクなどの種類を用意し、十分に摂取できるよう考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや見守り、介助など、お一人お一人に合わせた形で毎食後の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンの把握に努めている。リハビリパンツやパッド等はその方に合ったものを使って頂き、可能な限りトイレでの排泄の継続に努めている。	完全自立の利用者が1人、その他多くの利用者は、職員がパット交換確認のみで自力でトイレでの排泄をしている。自宅で便秘や下痢を繰り返していた利用者が、入居後は薬の調整と定期的な排泄誘導で改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動などの生活面を見直して、自然な排便を促すようにしている。その上で医師や訪問看護師と連携しながら服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴して頂けるようにしている。入浴中の方も他の方も安全に過ごしていただけるように、と考えるとお一人お一人のご希望に添うのが難しいのが現状。	週2回の入浴を基準とするがそれ以上の希望や、日曜日にも要望があれば対応している。嫌がる利用者も脱衣所まで誘導して話をしたり、入浴剤で気分を変えて対応している。浴槽への移動が困難な利用者は、併設するデイサービスのリフト浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分な睡眠・休息がとって頂けるように、昼間の活動状況なども考えている。どうしても眠れないご様子の時はホールで職員とともに過ごして頂く等して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に医療情報をまとめたものに薬の情報も載せている。服薬して頂いたらその都度記録に記入し、服薬前後に変化が見られれば、それも記録することで情報を共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やダンスなどの余暇活動的な事が好きな方があれば、家事作業的な事が好きな方もある。お好みの活動を楽しんで頂けるよう、様々な活動が提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日その日のご希望に添うのは難しい。気候の良い時には散歩のお声かけ等を行い、季節ごとに花見や紅葉狩りなどにお誘いするようにしている。	自力歩行できる利用者が多い。気候の良い日は職員と近くを散歩したり、毎年開催している健康「いきいき祭り」への参加利用者もいる。季節を体験する為、桜や紅葉を観にドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、事務所で預かりし、出納帳をつけて管理している。ご家族の了解のもと、ご自分で少額の現金をお持ちの方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ご本人の様子に合わせて使っていただいている。手紙については、ご家族から届くものをご本人にお渡しし、読んでおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節が感じられるような貼り絵などを飾ったりしている。音の大きさや光の強さ、温度などはご利用者様にもお聞きしながら調整している。	玄関に季節の花を植え、事務室から容易に見通せる両ユニットの居間は明るく、その壁面は手作りカレンダーやちぎり絵で飾ってある。広い廊下を挟んで居室が向かい合って配置しており、車椅子が自由に使える広いトイレと浴室は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時の席などは、気の合う方同士で座れるように工夫している。また、廊下にも椅子やソファを用意し、大勢の中から離れて休む事が出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などは持ち込んでいただけるようお願いしている。また、ご家族の面会時などに使われる様に応接セットなどを設置しておられる方も多い。	フローリング張りや畳敷きの和洋両様式がある。居室の入口に利用者にとっておきの写真や、季節を感じさせる花が飾ってあり、自室の目印となっている。押し入れ、洗面台、ベッド、空調機を備え、馴染みの筆筒や家族の写真を飾り自分好みの居室にしている。掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。トイレの入り口には表示板、風呂の入口には暖簾など目印になる様なものを設置し、そこが何処であるのか分かるように工夫をしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今年度、まだ避難訓練が実施できていない。 避難マニュアルはあるが、スタッフ全員が把握できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年に2回の避難訓練の実施。 ・訓練の実施の中で、マニュアルの周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年に2回の避難訓練の実施。今年度としては、1月と3月に行う。 ・現在あるマニュアルに沿った訓練を行い、さらに建物の見取り図を用いてのシミュレーションを行う。その中で、マニュアルの見直しも行う。 	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。